

第2章 基本理念

「子どもが自主的に読書に親しみ、感性を磨き、
学ぶ楽しみや知る喜びを体得し、“生きる力”を育むまち」

読書は子どもの成長にきわめて大切なものです。一冊の本との出会いが子どもたちの心の発達を支え、歴史上の人物の考えに触れることができたり、広い社会を知ること、自分の考えを広げることができるようになります。

子どもは、読み聞かせや自ら読書を楽しむことを通して、感性を磨き、想像力を培い、言葉の理解や表現力、語彙力や創造力を体得します。それらは、子どもが自ら考え、課題に直面した時に解決する力を養うことにもつながり、ひいては一人ひとりが生きる力を身につけていくこととなります。

近年、テレビ、携帯電話やスマートフォン、インターネットサイト等の様々な情報メディアの発達・普及や子どもの生活環境の変化、さらには幼児期からの読書習慣の未形成などにより、子どもの「読書離れ」が指摘されています。

このような状況で、子どもたちの身の回りに本と出合う環境を作り、読書の楽しさや喜び、大切さを知る機会を設ける必要があります。

一方、那覇市は独特な歴史を歩み、そこで育まれた文化が生まれ、いわゆる「しまくとぅば」による文学が形成された地域です。本市の歴史や文化を背景として、那覇市の子どもがあらゆる年代と多様な場において読書活動に親しむことができるよう、子どもの読書活動の推進にあたっては、5つの基本方針を設定して、諸条件の整備に取り組み、次代を担う子どもたちが読書を通して、学ぶ楽しさや知る喜びを体得できるようなまちを築いていきます。